令和５年10月１日に思う

霞が関ビルディング（東京）にあるこども家庭庁の事務方幹部の黒瀬審議官（長官官房、成育局担当）は、わが村を熟知されている頼もしい方です。誰もが健やかに暮らせる村づくりを称賛され、新しい保育園に子育て支援の総合拠点を伴う源流学園の建設にもエールを送っていただくなど、いつもご指導かつ励ましをいただいています。

かわかみ源流学園に併設する保育園には、子育て支援の総合拠点として「こどもセンターあま☆ごん」を設置します。ここでは、相談や交流を通じて、妊娠や出産、子育てに関する様々な親御さんの悩みを全面的に支える役割をしたいと考えています。あま☆ごんは、サケ科に属するあまごをもじったもので、サケのように海（下流）に下ったあと、荒波（都市で）にもまれ、成長して帰ってくることを願ったものです。保育園で生きる力の基礎をしっかりと身につけ、節目を大事にするも小学校と中学校の垣根をとって子どもたちを一体的に育む大切な事業と考えています。今年４月、子ども家庭庁が設立され、６月13日にこども未来戦略方針が策定されましたが、これらの取り組みに同調するものと考えています。とりわけ子育て世代をサポートすることは国の急務であります。この際、社会（大人たち）から、若者や子育て世代に対するメッセージとして、「家庭を持つことの幸せ」や「子育てすることの楽しさ」を具体的かつわかりやすく示す必要があると思います。わが村も同じです。「川上村で子育てしてください。しっかりサポートします。」源流学園の開校に向けて、こんなメッセージをより具体的に発信しなければと強く思います。